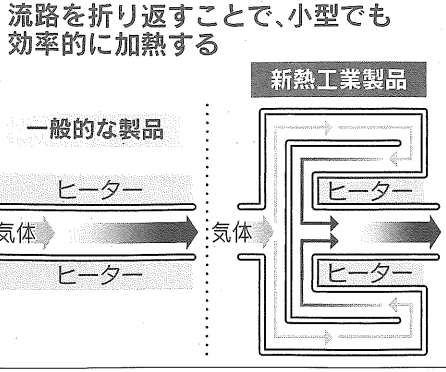


気体加熱器 大きさを半分に

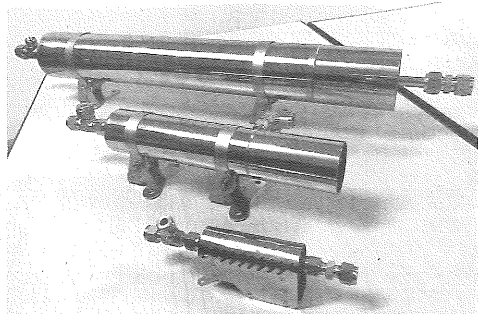
新熱工業

工業用ヒーターを製造する新熱工業(茨城県ひたちなか市)は半導体製造装置などに組み込む、小型の気体加熱器を開発した。加熱温度などの性能は保ちつつ、大きさを従来品の約半分に、重量は約5分の1に抑えた。同社はOEM(相手先ブランド)による生産)が大半なため、自社ブランド品を増やすことで収益の安定につなげることを目指す。



街角景気 4カ月ぶり改善

北関東3月 消費関連で上向き



新製品(手前)は従来品の約半分の大きさ

半導体製造装置向け

ブランド拡大で 収益安定を目指す

気体加熱器は半導体や有機EL、液晶ディスプレイなどを製造する装置に取り付ける。半導体製造装置の場合、窒素ガスを室温より高く温め、半導体が入った容器に充填して酸化を防ぐのに使われている。同社の気体加熱器は「3重構造」が特徴で、開発した「クリーンホットミニ」の大きさは長い。他社製品では断熱材などを混入するため不純物が混入する可能性があるが、新熱工業製は不使用。3重構造は新型機も取り入れている。

半導体などの製造装置は効率化や省エネのため、小型化が進んでいる。このため加熱器も小型品の需要が高まっている。新型機はこうした要望に対応する。受注活動を始

め、初年度は100台、3年以内に年500台の販売を目指す。気体加熱器は自動車の排ガスの成分分析や化学製品の製造など、新たな分野での需要も生まれてきているという。自社ブランドで売り出すことで

よる。自社ブランド品である気体加熱器の製品の幅を広げることで、収益安定にもつなげたい考えだ。今回の製品投入で3年以内に売上高全体の1割増を目指す。同社は気体加熱器のほか、厨房で使うフライヤーも自社ブランドで販売している。

太陽光発電に投資

常陽銀3行と出資のファンドで

めぐみフィナンシャルグループ傘下の常陽銀行は9日、十六銀行、南都銀行、山口銀行などと共同出資で立ち上げたファンドの第1号案件として、太陽光発電事業に投資したと発表した。投資額は非公表。併せて、同業社に対し同4行で18億1200万円を協調融資を使い、栃木県那須烏山市の2カ所、宇都宮市1カ所、福島県南相馬市1カ所の発電所を購入し、

木内酒造、品川駅に直営店



老舗酒造会社の木内酒造(茨城県那珂市)は9日、JR品川駅(東京・港構内)の商業施設「エキユート品川」に直営の飲食店を開業した。都内3店舗目で、駅ナカ施設への出店は初めて。茨城県産の食材を前面に出し、同社のアルコール飲料などを楽しめる。「常陸野ブルーイング品川Beer & Cafe」は「常陸野の風土を味わう」ことをテーマに、茨城の食の魅力のアピールする。常陸牛やつくば鶏のほか、生産量や漁獲高が日本一の干

し芋やサバなどを使ったメニューを取りそろえた。約10種類の同社ドラフトビールやウイスキーのほか、コーヒールなどのノンアルコール飲料も提供する。同店のテーブルやイスには酒などを運ぶときに使う木製パレットを再利用。リサイクルなどに配慮した。同店はエキユート品川の2階にあり、席数は51席。無休で午前10時に開店し、平日・土曜が午後10時、日曜・祝日は同8時半に閉店する。

駅ナカへ初出店

茨城の食材メニューに

8となった。4カ月ぶりに改善したものの、好不況の分かれ目とされる50は下回った。業種によって先行きの見込みは分かれる。「ガ

ホテル)、「受注は堅調で下振れる要素は見当たらない」(機械製造業)など、観光や製造業では前向きな声が聞かれ

している商品のほか、海外限定の眼鏡フレームなども扱つ。経済成長が続く同国への出店で、海外展開を加速する。

たフレームも取り扱つ。価格は約6000、約1万、約1万4000円の3種類とする。

シズンによると、フィリピン、中国、タイ、ベトナム、インドネシア、台湾、米国にあり、フィリ